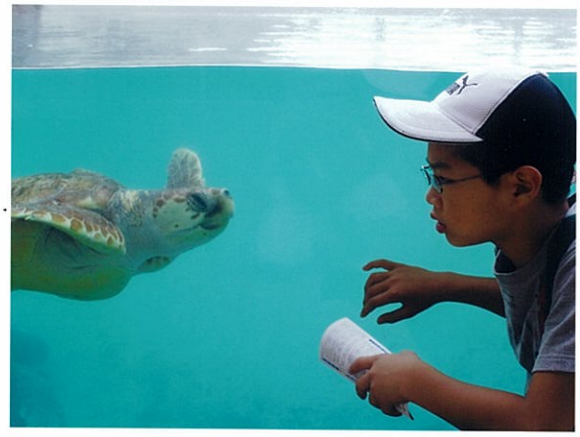
一つの骨から

岡村　太路



もくじ

1　ウミガメの骨を見つけた

2　骨のかたち

3　ぼくがこの骨がウミガメだと思ったわけ

4　この骨からわかること

5　ウミガメの骨格模型をつくってみる

6　本当にウミガメなのか

7　一つの骨から　～おわりに～

ぼくとウミガメにかんする年表

2003年12月	国立科博物館で初めてアーケロンの化石を見る。
2005年　1月	名古屋港水族館でアーケロンの化石と生きたウミガメを見る。
2005年10月	神奈川県立生命の星地球博物館でトリオニクスの化石を見る。
2006年10月	横須賀市秋谷海岸でウミガメの骨を拾う。
2007年　8月	ウミガメの全身骨格模型を作る。
2008年　7月	千葉県立中央博物館でウミガメの骨格標本を見る。
2008年　8月	新江ノ島水族館で骨を見てもらう。
	その時に、アカウミガメの甲ら付きの骨を見せてもらう。

1 ウミガメの骨を見つけた

ぼくが、ウミガメの骨を見つけたのは、２００６年１０月２０日のことです。

その日は、学校の開校記念日で休みでした。ぼくは父と２人で横須賀の秋谷海岸に遊びに行きました。最初は、潮だまりで生き物をつかまえて、かん察をしていました。つかまえたのは、ハゼや小さなエビなどです。その場所は、「かながわの景勝５０選」になっている「秋谷の立石」の近くです。

そのあと砂浜に移動して、ビーチコーミングをしました。これまでも、動物の骨を拾ったことがあるので、この日もなにか見つけられるかもしれないと期待してました。

この日も、いつものようにタカラガイなどの貝をたくさん拾うことができました。この日は、もっとすごい物を見つけることになるのです。

砂浜をいくつか移動して、なにかめずらしい物がないか探しました。
砂浜のはしの方に打ち上げられた物がゴミの山のようになっている所がありました。その中に白いかたまりがありました。掘り出してみると、なにかの骨のようです。それは、はご板のような形の骨とくちばしのような形の骨です。きっとそれは、『ウミガメの背中の骨の一部』と『下あごの骨』のようです。調べてみないとわかりませんが、

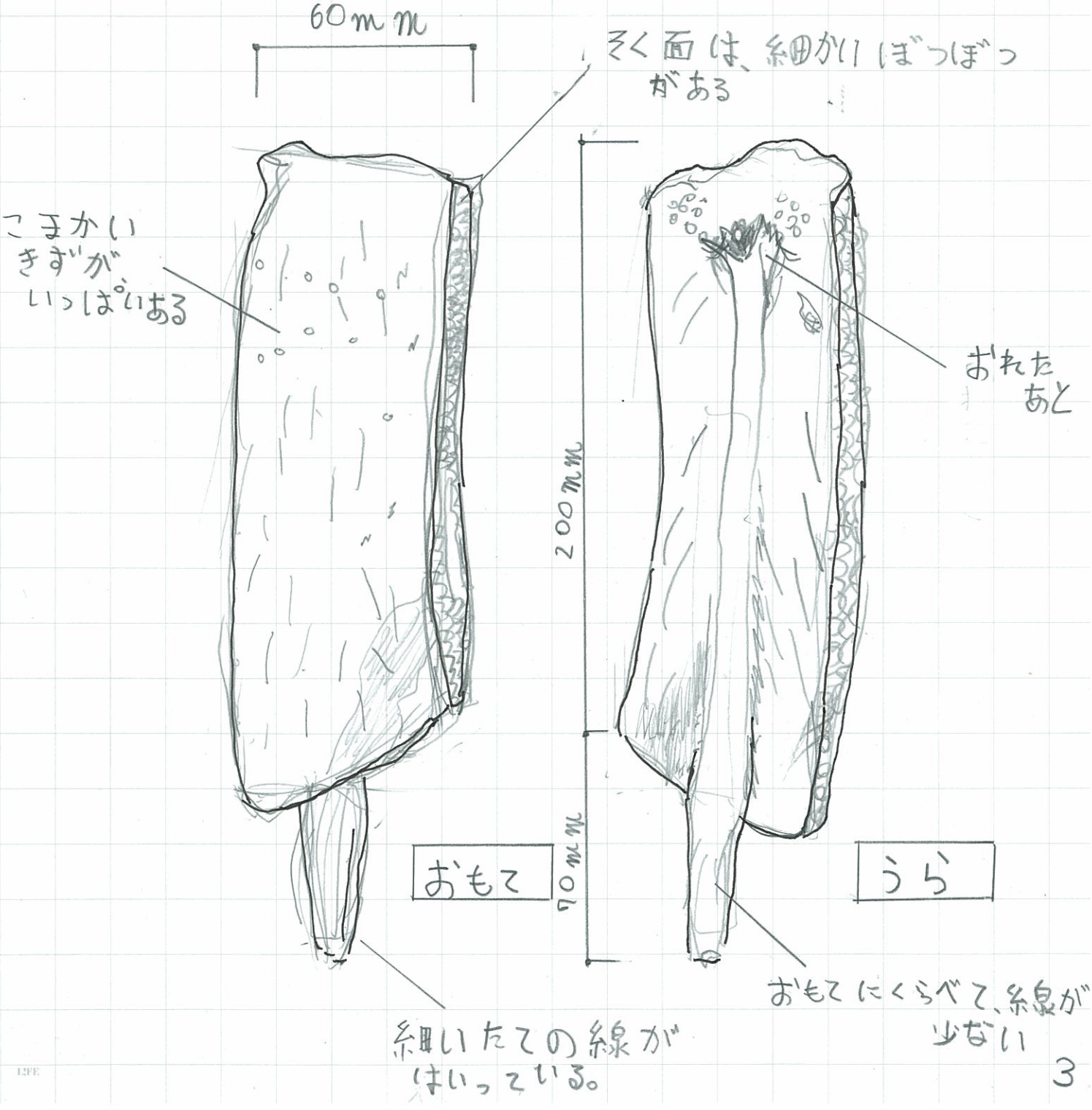
たぶんまちがいありません。
ぼくは、その骨をだいじにしまってから家に帰ることにしました。ほんとにその日は、大収穫でした。ただ問題が一つあります。この骨はとてもくさいのです。早く標本にしないといけません。

2

骨のかたち

- 拾った場所　横須賀市秋谷海岸
- 拾った日時　2006年10月20日
- 骨の形　はご板のような形

ウミガメの骨のスケッチ



3

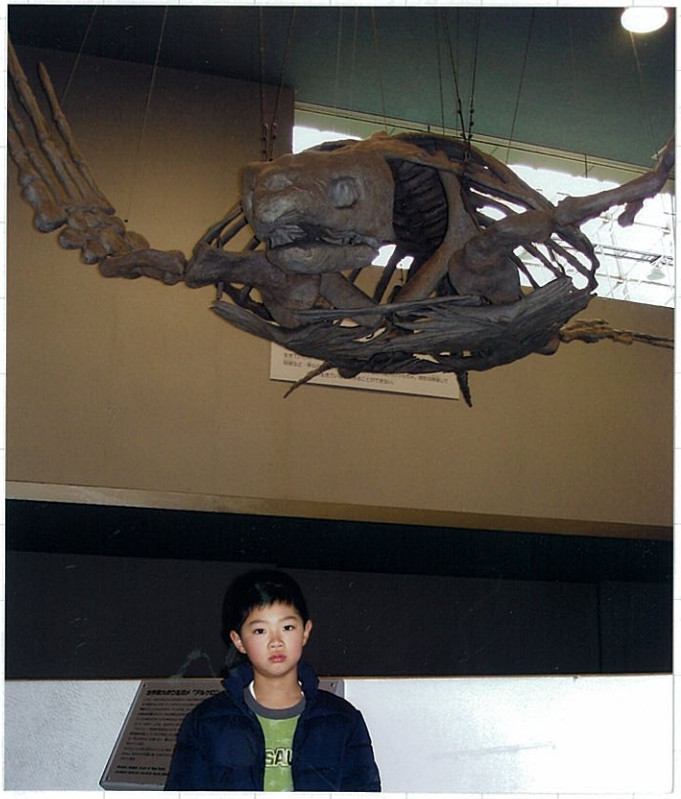
ぼくがこの骨がウミガメだと思ったわけ

この骨がウミガメの骨かもしれないと、ぼくが思ったのは、以前、カメの仲間の骨格標本を見たことがあったからです。

初めて見たのは、国立科学博物館のアーケロンの化石です。5年前のことです。

アーケロンとは、今から約650.0万年前の白亜紀後期に生きていた巨大な古代のウミガメです。

このアーケロンにはこうらはありません。現代も生きているオサガメやスッポンと同じような背中をしていたと考えられています。

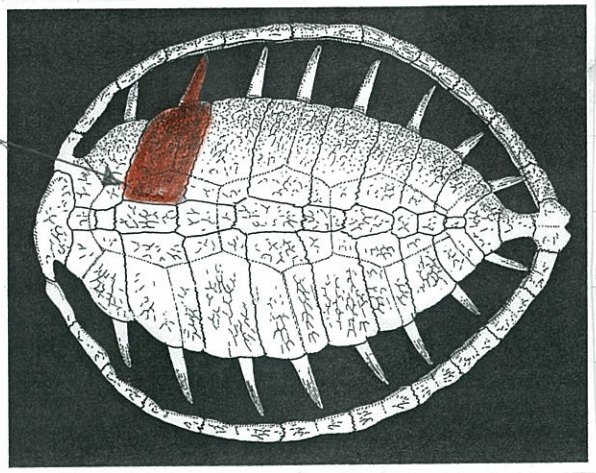


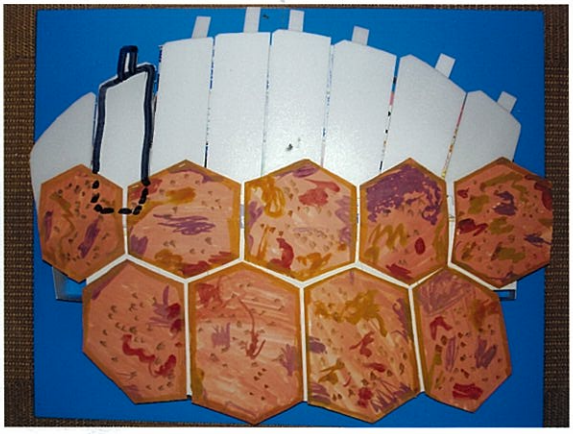
右の写真は、名古屋港水族館に展示しているアーケロン(アルケロン)です。とても大きい古代のウミガメです。背骨の形は、現代のカメとほとんど同じとくちょうを持っています。

4 この骨からわかること

この骨は、ウミガメの背中の骨の一部であることはまちがいなさそうですが、背中のどこの骨かわからないので、本を探して調べてみました。

図書館でかりた、『骨の学校』（盛口満＋安田守：著）にのっていた絵によるとだいたいどの部分なのかは見当がつきました。





5 ウミガメの骨格模型をつくってみる

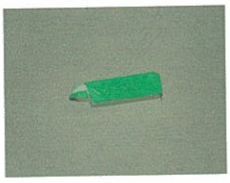
ぼくは、この骨のウミガメのすがたを想像したくて、骨格模型を作ることにしました。

まずは、本にのっていたスケッチを参考にして、全体の大きさがどれくらいになるかを調べてみることにしました。拾った骨からすると、このウミガメの甲長は、90cmにもなりそうです。最初はかんたんに考えて作り始めたのですが、できあがった物は、とんでもない大きさになってしまいました。

本当にウミガメなのか

6

骨の形のスタンプを作った

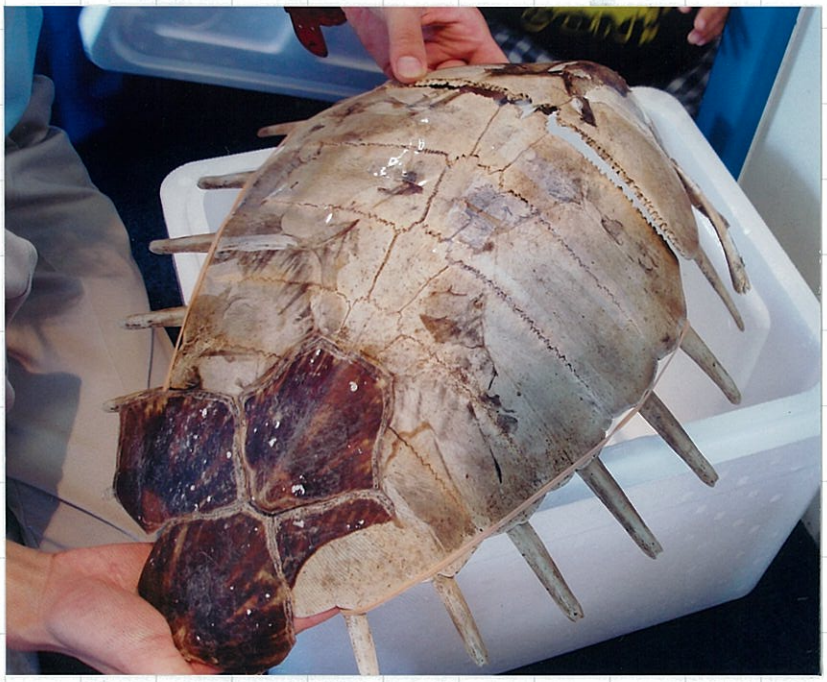


ぼくは、このレポートをまとめるときに、おまけで『骨の形のスタンプ』を消しゴムを切って作ってみました。
これをレポートの見出しのところに使いました。

ある日拾った骨をぼくは、まちがいなくウミガメの骨だと推定していたわけですが、いままで、この骨をかん定してもらうチャンスがありませんでした。
そこで、ウミガメをたくさん飼育している新江の島水族館へ行ってみることにしました。水族館の係の人にこの骨を見てもらおうと思ったのです。それと久しぶりに生きたウミガメを見たかったからです。

新江の島水族館では、ウミガメプールでウミガメを見たあと、総合案内でウミガメの骨をみてもらいたいことをつたえました。
しばらくすると、女の人がやってきました。その人は、ウミガメプールにいた飼育員のイでした。

さっそく、その飼育員の人に拾った骨をみてもらうことにしました。
すると、みてもらったところウミガメの骨でまちがいないと言うことでした。ぼくは少しホッとしました。拾った場所やその時の様子などを聞かれたので、くわしく、つたえました。
そのあと、その飼育員さんは「ちょっとまってて、いい物がありますから」と言って、大きな白い箱をもってきてくれました。その箱の中に入っていたものに、ぼくは本当にびっくりしました。



古代のカメ　トリオニクス

ぼくは、博物館に化石をよく見に行きます。これは、トリオニクスと言う古代のカメの化石です。神奈川県立生命の星地球博物館で2005年に見ました。
トリオニクスは、一億年以上前のジュラ紀から白亜紀前期にかけて生息していたカメです。この仲間は、現代でも生きています。

それは、写真のとおり本物のウミガメの背中全体の骨格でした。飼育員さんの友人がおくってきてくれた物らしいです。
沖縄県の砂浜で最近、うち上った物だそうです。びっくりしましたが、やっぱりくさかったです。ぼくが拾った骨と同じにおいです。

飼育員さんから、いろいろと教えてもらって、たしかめられたこと、そして新しくわかったことがあります。

《たしかめられたこと》

1．この骨は、ウミガメの骨である。

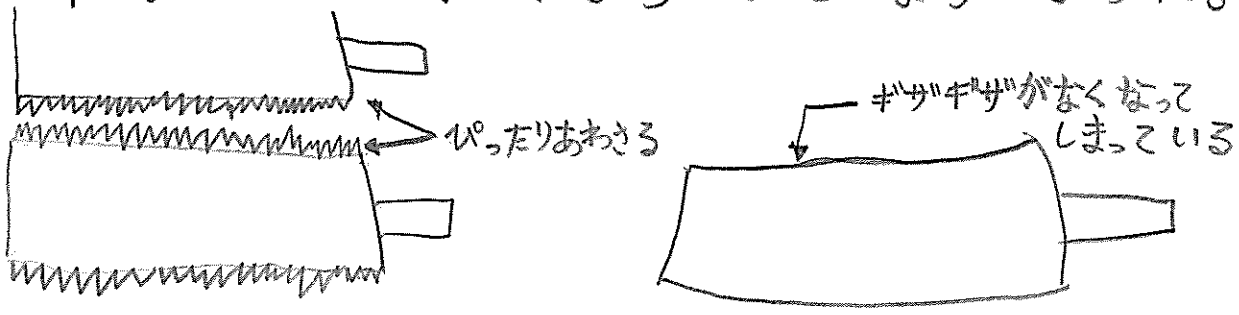
2．この骨は、背中の一部で、その位置は想像していた場所でまちがいなかった。

3．ぼくの骨とくらべると、飼育員さんが持ってきた物より二まわり大きいウミガメである。その甲長は予想どおり約90cmである。

《新しくわかったこと》

1．この骨の主は、『アカウミガメ』らしいこと。

2．この骨のそく面は、もともとはジグソーパズルのようにギザギザしていたらしい。拾った骨は、海の中でけずれてしまい、ギザギザがなくなってしまったようだ。



もともとの骨の形　　拾った骨

3．このアカウミガメは、黒潮に乗ってアメリカ近くから太平洋を横だんして、日本にもどってきたらしいこと。（この甲長の大きさからすると、大人のカメであることはまちがいないから）

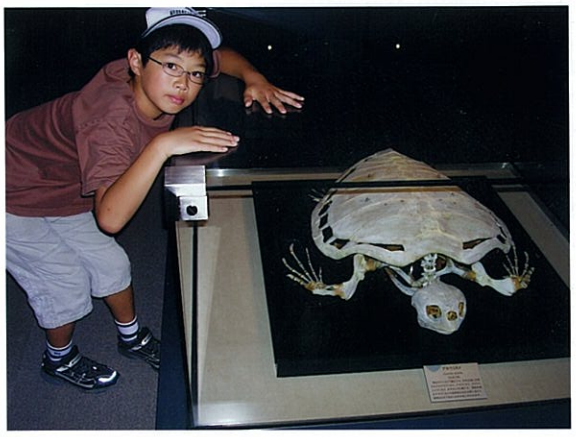
7 一つの骨から ～おわりに～

ぼくが、ぐうぜん拾った一つの骨から、いろいろなことを知ることができた。

この骨の主がどこで生まれて、どこでくらして、そして死んだのかは、そうぞうするしかないが、それを考えるのはとても楽しい。

たまたまぼくに拾われた骨は、ぼくたいろいろなことを教えてくれたし、いろいろな出会いをつくってくれた。ありがとう。

一つの骨よ、どうもありがとう。



はじめて　ひろった骨は

ぼくがはじめて骨を拾ったのは、福井県に化石発掘に行った、小学二年生のときです。それを見つけたときは、ぼくは恐竜の化石かと思ってドキドキしましたが、残念ながらイヌの骨だったのです。

いっしょに行った国立科学博物館の真鍋さんに鑑定してもらいました。

参考にした資料

- 「骨の学校」　盛口満＋安田守　木魂社
- 「骨の学校２」　盛口満　木魂社
- 「大むかしの生物」　小学館の図鑑 NEO　小学館
- 「両生類・はちゅう類」　小学館の図鑑 NEO　小学館
- 「ウミガメの冒険」　中村庸夫　講談社